「雷別ドングリ倶楽部」これまでの活動（平成20年度）

○平成２０年５月２４日（土）：春の樹木・草花調査を実施

５月２４日（土）、7 名が参加して今年度初めての活動を実施しました。

最初に、雷別地区自然再生事業の試行実験区に植栽した広葉樹苗木の成長観察をしながら、植栽木に番号札の取り付けを行いました。今後は倶楽部で植栽木の成長量調査やエゾシカによる被食調査に取り組んでいければと思っています。

次に、事業地近くの沢まで降りながら樹木・草花の調査をしました。オオバナノエンレイソウやエゾエンゴサク等の花をデジカメで撮影したり、キハダとオニグルミの木肌の手触りの違い等を勉強しました。今回は春に咲く花を中心にデジカメで記録をしましたが、少しずつデータを収集して倶楽部独自の手作り図鑑を作成する予定です。途中、クサソテツ（コゴミ）など山菜として利用できる植物を観察しながら、採取の方法等山菜採りのマナーについても勉強しました。

午後からは、ふれあいセンターに移動して、昨年採取した広葉樹のタネから芽生えたキハダ等の様子を観察しました。もう少したったら、コンテナ苗育成用のトレイに移植します。この苗木は市民の皆さんに３年間程自宅で預かって育ててもらう取組に利用していきます。

最後に、倶楽部の今年度の活動計画を話し合いましたが、雷別での自然再生事業に参加する市民活動を支えていくためにも、色々な活動に挑戦していきたいと考えています。

○平成２０年６月２１日（土）：春の「雷別自然再生学習会」に参加

ふれあいセンターが、標茶町雷別地区国有林で実施している森林再生事業への理解と市民参加を呼びかけるための「雷別自然再生学習会」に会員１名が参加しました。北海道は、この時期、アウトドア・ライフを楽しむのに一番良い季節のため、学習会への参加を見送り別な活動に出かけた会員が多かったのか、ちょっと会員の出席が少なかったのは残念でした。

一般募集で参加された親子 3 世代 5 人のご家族や地元標茶高校生 4 名と一緒に雨にも負けずハルニレのタネ採取と播種、ミズナラ等の広葉樹の植樹を実施しました。昼食後も雨が止まず、午後から予定されていた森林浴をしながらの樹名板取り付け作業は中止となりましたが、バスの中から事業地近くの森林を見学しながら、森林と樹木の話を聞いて学習会を終了しました。

朗報です。5 月 24 日の第 1 回目の活動以降、倶楽部会員が急増しました。会員の紹介 3 名、6 月 4 日に根釧西部署と合同で開催した「パイロットフォレスト植樹と森林浴＆雷別見学会」の出席者から 3 名、さらに今回の学習会参加者からの 1 名を含めて、一気に会員が 11 名から 18 名となりました。今後も倶楽部活動の充実と倶楽部のＰＲをしながら参加者を増やしていきましょう。

○平成２０年７月９日（水）：コンテナ苗育成用のトレイに移植

昨年の秋に雷別事業地で採取して春に芽生えた広葉樹の幼苗をコンテナ苗育成用のトレイに移植する作業等を参加者 15 名（当日加入 1 名）で実施しました。

まず、昨年の秋と今年の春に播いたミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、キハダ、イタヤカエデ、シラカンバの芽生えの様子等を観察しました。ミズナラの秋播きは、トレイに直接播いたものは発芽が殆ど見られず、発泡スチロールの苗床に播いたものは発芽率が 20 %となっていました。春播きはトレイに直接播いたものだけですが、発芽率は 10 %とあまり高くはありませんでした。ハルニレとシラカンバは秋播きも春播きも少しずつ芽が出始めたばかりです。ヤチダモは 2 年目に発芽するものが殆どということで数本しか芽を出していません。キハダは、秋播きも春播きも発芽率が 20 %で順調な生育をしています。イタヤカエデは秋播きが数本程度しか芽を出しておらず発芽率 4 %と低い結果となっています。

次に、幼苗の生育が順調なミズナラ 24 本とキハダ 70 本をトレイに移植しました。初めて移植作業を体験する会員が多かったことから、コンテナ苗育成用の培養土作りとコンテナ苗の特性等を説明してから作業を開始しました。他の樹種については今後の発芽や生育状態を見ながら移植を行うことにしました。雷別の森林再生事業地には植栽しませんが、コンテナ苗育成用のトレイで針葉樹を育てた場合の生育を観察するためにトドマツ、アカエゾマツの幼苗も移植しました。

また、春の雷別自然再生学習会で播種したハルニレの発泡スチロール苗床が、動物（確かではないが近頃よく出没する親子のエゾシカの仕業か？）にいたずらされたことから、補完的に採取したばかりのハルニレの種を播きました。

最後に、コンテナ苗を自宅の庭で育成するお手伝いをしていただく市民の方を、会員が呼び掛けていくことをお願いして終了しました。

○平成２０年７月３０日（水）：苗木移植と炭材採取

今日は、臨時の活動でしたが 7 名の参加者があり、苗木移植と炭材採取の組に分かれて実施しました。

コンテナ苗育成用のトレイに移植したのは、７月９日の活動日に苗木が芽が出たばかりで実施できなかったハルニレ、イタヤカエデ、シラカンバの幼苗です。ハルニレ 120 本は予定していた数量の 7 割、イタヤカエデ 7 本、シラカンバ 17 本は 3 割程度しかなく、予想した発芽率よりもかなり低くなりました。播種用の育苗箱を置いている釧路市千歳町の気候は、雷別産広葉樹のタネにとって芽生えるのに厳しいのでしょうか？今後、播き付け量は多めにしなければならないと反省しているところです。

炭材採取は、倶楽部で予定している 11 月の炭焼き体験に用いる材料をキトウシ野営場近くで実施しました。送電線の支障となることから伐採された木を、蜂刺され防止のための網を被って大汗をかきながら採取しました。採取した材はミズナラ、シラカンバ、イタヤカエデなどの広葉樹です。標茶町と厚岸町にまたがるパイロットフォレストと呼ばれる広大な人工林がありますが、そこに設置されている簡易炭窯での炭作りを倶楽部会員全員が楽しみにしているところです。

○平成２０年９月１３日（土）：地ごしらえ作業と広葉樹種子豊凶調査

今日は、倶楽部会員 10 名と会員のお子様１名の参加者でした。前日の豪雨が嘘のように晴れた秋空の下で、さわやかな汗を（たっぷり）流しました。

まず、試行実験区に設置されたシードトラップを交換しました。今年はシラカンバの種子が大豊作なため正確に数量を数えるために回収・交換することにしたものです。トラップに種子が多数入っているのを確認しながら、色々な種子の散布方法についても勉強しました。その後、地ごしらえ作業を行う班と広葉樹種子豊凶調査を行う班に分かれて活動しました。地ごしらえ作業では笹等を刈り払うのに長い鎌を使用するため、狭い場所で全員がかたまって作業を行うのは危険なため、２班に分かれて実施しました。

地ごしらえは、苗木を植栽するのに支障となる笹や草を刈り払う作業ですが、山の仕事の中でも大変な作業の一つです。普段使い慣れない長い鎌を使って、汗だくになりながら 10m 四方を刈り払いました。10 月 11 日に実施する雷別自然再生学習会で、一般参加者と一緒に広葉樹を植栽する予定です。

広葉樹種子豊凶調査では、事業地周辺のミズナラ、カシワ、イタヤカエデ、シラカンバ、キハダ、ヤチダモの豊凶調査を行い、雷別自然学習会で行う種子採取箇所を決定しました。今年はミズナラ、カシワ、シラカンバは豊作、キハダは並作、イタヤカエデ、ヤチダモは不作のようでした。また、調査の途中で広葉樹の木の葉を観察しながら押し葉用の葉っぱも採取しました。

午後は、班の作業内容を交代して実施し、予定した地ごしらえも終了しました。釧路地方では珍しい残暑となった秋の一日でしたが、皆さんの顔に作業を成し遂げた達成感が溢れていました。

○平成２０年１０月１１日（土）：秋の「雷別自然再生学習会」に参加

今日は、ふれあいセンター主催の「雷別自然再生学習会」に会員７名が参加しました。一般参加者は釧路市から６名、標茶町から３名でした。

初めに、森林再生事業の概要説明があり、その後、植樹、タネ採取、タネ播きの作業を体験し、午後から森林散策を行いました。

植樹では、９月１３日に当倶楽部が苗木を植え付けるために笹地を刈り払い（地拵え作業）した場所に、ミズナラ、イタヤカエデ、シラカンバ、キハダ、ヤチダモを合計９６本植栽し、また、ミズナラのタネ５０個も直まきしました。植樹作業はササの深い根を掘り返しながら実施するため、皆さん慣れないクワを使って汗だくでがんばっていました。タネ採取では、風散布など樹木に応じたタネの散布方法の話を聞いてから、シラカンバとミズナラの種子を採取しました。播種作業では、自然の中での広葉樹芽生えの話しの後で、ミズナラ、ヤチダモ、シラカンバ、キハダのタネを発泡スチロールの苗床に播きました。午後からは、樹木の名前の由来などの話を聞きながら森林散策と樹名板設置を行いました。黄色や朱色に染まった紅葉を楽しみながら午前中の疲れを癒しました。

朝はかなりの雨が降っていましたが、現地に到着する頃にはさわやかな秋晴れとなり、絶好の森林学習会日和の一日でした。

学習会に参加されたお一人がドングリ倶楽部の活動に共感され入会することになりました。

○平成２０年１０月２２日（水）：エゾシカ食害防護柵の設置と広葉樹の播種

秋も深まり朝晩の冷え込みが増してきた中、会員８名が出席してエゾシカ食害防護柵設置と広葉樹の播種作業を行いました。

エゾシカ食害防護柵は、タネ播きした育苗箱やマルチキャビティコンテナに移植した苗木を、冬の間、雷別の事業地近くで育成するために、エゾシカから保護し無事に越冬させるために行ったものです。誰も経験のない作業でしたが、全員の知恵を出し合いながら１０m四方の柵を２時間ほどで完成させました。素人集団にしては段取りよく、満足できる出来ばえになったのではないかと思います。また、支柱の打ち方、ロープの張り方など普段自宅の畑作業でも応用ができると熱心に作業に打ち込んでいる人もいました。

タネ播き作業は、秋に雷別で採取したミズナラ（405 粒）、ヤチダモ（476 粒）、シラカンバ（1500 粒）、キハダ（210 粒）、イタヤカエデ（420 粒）のタネを発泡スチロールの育苗箱に播きました。タネの大きさなどに応じた播種方法や樹種ごとの発芽率を考慮に入れながら播きつけ、午前中に完成した防護柵の中に据え付けました。育苗箱は、雑草のタネが入らないように目の細かい網で覆いましたが、ミズナラのタネ（ドングリ）はリスやネズミの大切な冬場の食料でもあり、掘り出されてしまわないかと心配ですが、春まき用に土中埋蔵や冷蔵庫に保管したタネがありますので、来春の発芽状況を観察しながら不足した場合には春まきで対応したいと思っています。

○平成２０年１１月２９日（土）：炭焼きと花炭、除伐作業を体験

師走を目の前にした 11 月 29 日（土）、標茶町と厚岸町の両町にまたがるパイロットフォレストで、会員１０名が出席して簡易炭窯を使用しての炭焼きとブリキ缶での花炭作り、アカエゾマツ人工林の除伐作業を体験しました。

日頃は標茶町雷別地区の自然再生事業地で活動しているドングリ倶楽部ですが、今回は炭焼きが体験できるよう４基の簡易炭窯が設置されているパイロットフォレストで実施しました。

炭焼きでは炭窯２基を使用し、１基はカラマツを、もう１基はシラカンバやイタヤカエデの広葉樹を炭材として焼きました。着火してから約４時間ほどで火止めをしましたが、残念ながら１日は窯を冷まさないと炭を取り出せないことから、来春の活動時に出炭することにしています。

花炭作りは、会員が持ち寄った栗のイガイガやオオウバユリの実、マツカサなどをブリキ缶で焼きました。また、カボチャ 2 個を炭窯に入れ炭材と一緒に焼きました。カボチャの出来映えは見ることができませんでしたが、ほかの花炭は栗のイガイガやトドマツの葉っぱの小さなところまできれいに焼き上がりました。

アカエゾマツ人工林では、枝葉が混み合って日光が入らずに下層植生が生えていないところで、植栽木を間引きする除伐作業を行いました。初めに伐採の方法などを確認し、安全に留意しながら実施しました。２０本程度しか伐採できませんでしたが、春には明るくなった林床に植生が復活することを願っています。

○平成２１年２月２１日（土）：冬芽の学習会と次年度の活動についての話し合い

ｵﾆｸﾞﾙﾐの葉痕

ﾐｽﾞﾅﾗの髄

ｶｼﾜの頂芽

ｶﾂﾗの仮頂芽

ｹﾔﾏﾊﾝﾉｷの頂芽

ﾂﾙｳﾒﾓﾄﾞｷの葉痕

根釧西部森林管理署の会議室で雷別ドングリ倶楽部の第９回活動として、「冬芽の観察学習会」を実施しました。前日の大雪の影響で５名の方が出席できなくなり８名の参加で行いました。

最初に、７樹種の冬芽を机に並べ、どの程度見分けることができるか挑戦してもらいました。特徴のある冬芽や葉痕を持つ樹種を選びましたが、なかなか難しかったようで、皆さん長い間冬芽とにらめっこをしていました。その後、７樹種の冬芽や葉痕の特徴を拡大したスライドで見ながら、冬芽のそれぞれの特徴や髄の違い、葉痕の様々な形をゆっくりと観察しました。次回の冬芽の観察は是非森林の中で行いたいと思っています。

次に、20 年度の活動を振り返り、次年度の活動内容について話し合いました。その結果、次年度の活動については以下のとおりとなりました。

５月 20 日（水）昨秋に焼いた炭窯の炭出し、ミズナラ播種、看板整備
６月 13 日（土）雷別自然再生学習会に参加
７月 15 日（水）苗木移植、下草刈り、樹木観察、夏の花撮影
９月 ２ 日（水）地拵え、種子豊凶調査、シードトラップ設置
10 月 17 日（土）雷別自然再生学習会に参加
11 月 28 日（土）炭焼き、花炭作り、除伐体験
３月 17 日（水）冬芽の観察、次年度の打合せ

雷別事業地周辺にある樹木の標本作りについては、ドングリ倶楽部の学習した内容や観察時の写真等を利用して、次年度の活動の中で精力的に取り組むことにしました。

また、意見交換の中で、春採湖の周囲にある樹木の学習会実施や森林管理署の仕事の内容等について詳しく教えてほしい等が出ました。次年度の活動の中でも可能なことから検討することとしました。

当日のお一人は、倶楽部の活動内容を知りたいと言うことで特別参加でしたが、会議終了の際にドングリ倶楽部への参加を表明されました。新しい多くの参加者を迎え、来年度の活動も活発なものになることを確信したところです。